

当院の取り組み

健康アドバイザーとしての病院利用を

● 保健予防活動の中心、健康センターをのぞいてみてください ●

「健康センター」は、人間ドックなどの健診をはじめ、様々な保健予防活動を行う場所です。「病院は、病気の時に行くところ」と考えがちですが、実は「健康アドバイザー」の役目も大きく、健診はその代表的なものです。今回は、最近ますます注目を浴びている「健康センター」の活動の一端をご紹介します。

検診車で年間200回以上も「出勤」

「健診」という表現は総合的な健康診断を表し、「検診」は特定の病気がどうかの診断をするときに使います。身近にすぐ思いつづのが、検診車を使って行う「胃検診」や「婦人科検診」です。また、当院に配備してある大型検診車は、胃部・胸部どちらにも対応できるもので、この「出張型健診」の依頼も数多くあります。このように「出張型健診」の出勤回数は、年間延200回以上。受診者は1万人を大きく上回っています。

男鹿市では、前泊！——そこに住民が居るから
出向く、健診隊の心意気——

特に4月から7月まで、検診車は毎日のように午前・午後、あるいは同時に2台稼働するときもありました。健診日程を調整するだけでも大騒ぎ。中でもドラマチックなのが男鹿市の胃検診です。開始時刻が午前5時頃です。男鹿半島の突端までは遠いですが、

健康診断受診のおすすめ

保健福祉活動室室長 佐伯 剛



健康で長生きしたいと誰でも思っておりますが、自分の健康チェックは怠りがちなものです。いわゆる生活習慣病は、初めはほとんど自覚症状がなく、症状が出たときはすでに進行状態で、余病を併発していることがしばしばあります。これら生活習慣病を予防し健康を保つためには、異常の有無の早期発見がきわめて重要です。

こんな方は、ぜひ健診を・・・

- 中年以上の方で、自分は絶対健康だと思っている方
- 自分の健康状態は気がかりだが、医者に行くほどではないと思っている方
- とても忙しくて、暇がないような方
- 若いときから身体に無理をして、いつも不規則、不摂生な生活を送っている方
- 毎年健康診断を受けて、いつまでも長生きしたい方
- 自分の家族を生活習慣病で亡くした方や、現在治療中の方がいる方



増えるドック受診希望者に
何とか応えたい……

外で「出張型健診」を実施する一方、院内では「施設型健診」も行われています。1泊2日の入院ドック、日帰りの外来ドック、そして、政府管掌健康保険による生活習慣病予防健診などです。近頃は、この「施設型健診」の受診を希望する方が大変増えていきます。病院としては、ご要望に応えるため、業務を改善しながら、少しずつ「受入ワケ」を増やしてまいりました。例えば、平成14年度の場合、入院ドック受診者は1,164人。これは、秋田県厚生連9つの病院の中でも、トップです。

しかし、それでも地域の方々の受診希望に日程が追いつかないのが現状です。特に競争率が激しいのが入院ドックで、まだ多くの方が「キャンセル待ち」。また、キャンセルした方は、そのあと日程が取れず、皆様からお叱りをいただいている状態です。ドックは、外来治療の合間を縫つ

病院の基本理念

わたしたちは、生命の尊重と、平等な人間愛を基本とします
地域の基幹病院としての自覚をもち、明るく豊かな社会づくりに貢献します

- お約束
- 一、患者さまの信頼と満足が得られる最善の医療・看護をめざします
 - 一、患者さまの必要とする情報の提供につとめます
 - 一、患者さまのプライバシー保護に万全をつくします

秋田組合総合病院の患者さまの権利

わたしたちの病院では、安全で質の高い安心な医療を提供するために、患者さまの権利を保証することをお約束いたします。

この権利は、患者さまと医療従事者の共同の力で行使され、継続・発展されていくもので、患者さまの立場にたった医療に不可欠の内容となっています。

1. 良質で安全な医療を公平に受ける権利
 2. 人格を尊重され、専門的医療の対応と援助を受ける権利
 3. 自己の医療内容を知る権利や医療情報の開示を求める権利を有し、十分な説明と情報提示のもとで、治療方法に自己決定できる権利
 4. プライバシーを保護される権利
 5. 健康教育を受ける権利
 6. 医療参加の権利
- 病院の諸規則を知り、医療内容や病院の運営に提言し、ともに医療改善の活動に参加する権利

なお、すべての患者さまが適切な医療を受けられるために、患者さまには、他の患者さまの治療や医療従事者による医療提供に支障を与えない配慮をする必要があります。



スタッフ一同前日から泊り込みます。人口の少ない集落をこまめに回るため、1回の受診者数は決して多くはありません。でも、そこに住民が居るから、採算を度外視して出向く、これが健診隊の心意気です。

健康センターは、いつでも皆様をお待ちしています

今年度から、健康センターに、専属の医師を配置しました。また、知識豊かな保健師が、いつもセンター内に1人は居るようにしています。健診でなくても、健康に関する相談事など、気軽にご利用下さい。健康センターは、入り口で爽やかな音楽を流し、待合室にはテレビや雑音をお茶なども備えて、いつでも皆様をお待ちしています。



入院ドック	1泊2日	男性 65,100円 女性 68,250円
外来ドック	月・火・木・金	男性 35,700円 女性 42,000円
政管健診	月・火・水・木・金	35歳以上の政府管掌健康保険加入者 一般健診 5,880円

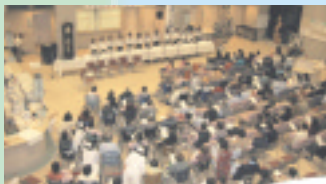
あしあと



10月29日
救急隊員
合同カンファレンス



12月16日 永年勤続表彰



12月19日 クリスマスコンサート



2月17日
禁煙研修会



2月18日 患者搬送



2月28日 事故防止研修会



3月5日 学術発表会



3月15日 クリニカルパス研究会



4月1日 平成15年度新入職員



5月14日 SARS研修会

SARS対策

内科科長 糸賀 寛

SARS(重症急性呼吸器症候群)は新型コロナウイルスによる飛沫、接触によって起こる感染症です。潜伏期間は2~7日(最長10日以上)、高熱で始まり咳、呼吸困難や全身倦怠感、筋肉痛があり、肺炎を合併します。適切な治療法は見つかっていません。最近、香港をはじめ中国などで流行し、死亡率が高く問題となっています。

日本では感染者は発生していませんが、新感染症に指定され、一類感染症(エボラ出血熱)に準じて取り扱いをします。当院は、SARS初期診療機関に、また入院機関にも指定され、外来、入院患者さんに対する取り扱い規約を作成し、治療と感染拡大の防止に取り組んでいます。

進歩する最新医療



リハビリテーション科長
石澤 暢浩

【第3回】いま、リハビリは どう変わったか!

リハビリテーションという言葉は、遠く中世キリスト教の時代には、破門の取り消し“のことで、再び人間社会に戻ることを意味していました。近世においては裁判などで無実が明らかとなり名誉が回復されるという意味に用いられるようになりました。リハビリテーションの概念は第一次世界大戦の時に身体障害を被った復員軍人に対する社会の同情から起こったもので、その学問的基礎はポリオによる(特に児童の)身体障害に対する対策によるところが大きいのと思われまふ。

いままでは、どのような状態の患者でも、時間が許す限りはリハビリを行っても保険制度上の問題はほとんどありませんでした。しかし、平成14年4月の診療報酬改正により、理学療法士、作業療法士、言語療法士の一日の持ち時間が18単位(1単位20分)に定められ、一患者一ヶ月10単位を超えると減額になります。その反面急性期リハビリの点数が加算されています。特に、当院のように急性期医療を行っている病院では、いままでのようにゴールとなつてもリハビリを続けていた患者のリハビリが制限されるようになりまし



部署紹介

No.3

放射線部

副技師長

小川 秀晴

放射線部は、放射線科医1名と診療放射線技師13名・助手3名、そして看護師2名で業務を行っています。皆様になじみの深い胸・腹部・骨のX線撮影はもちろん、乳房撮影・X線CT・X線透視など、放射線を用いてからだの中の情報を画像化するほとんどの分野にたずさわっております。

医療で用いられる放射線の量は原子力などとは異なり、きわめて微量ですが、それをさらに最小限にとどめて、なおかつ最大限の効果的な情報を引き出すのが私たちの任務です。シンチグラムという、X線撮影よりもさらに微量な放射性医薬品を投与して体内の早期の変化を画像化する検査や、強力な放射線エネルギーを用いて病気を叩く放射線治療装置、さらにMRIという放射線を使用せず超強力な磁石と電波で体内の情

報を画像化する検査等も私たちが担当しています。心臓の血管を検査・治療する心臓カテーテル検査、脳やおなかの血管の検査・治療を行なう頭腹部血管造影など、循環器科・脳外科・放射線科の医師と行なう医療の一員でもあります。ほかに、病院内での集団検診、手術室での術中透視、動かない患者様の病室での撮影、昼夜を問わない救急業務など、石岡技師長はじめスタッフ一同、精一杯がんばっております。とすれば心に余裕がなくて近寄りたく感じられる事もありますが、もしも私たちが、人にやさしい医療を『モットー』に、機器にふりまわされる事なく、患者さま第一の医療を心がけておりますので、ぜひお声をかけていただければ、私たちのほげみにもなります。どうかよろしくお願いたします。

編集後記

東北地方も梅雨入りをし、うとうと暑い日々が続いておりますが、健康管理は大丈夫でしょうか。世界はSARSに脅かされ、メディアは一面に取り上げております。我が秋田組合総合病院は、SARSの収容病院に指定され緊迫した雰囲気の中で、日々仕事に追われております。早く治まって欲しいと願っております。

さて、「光と風」も第三号の運びとなりました。当院の取り組みとして、今回は、「健康センター」の活動を紹介いたしました。病院の中だけではなく、検診車で、各地区にでかけ住民の健康管理に協力しております。早期発見、皆様も「健康センター」に足を運んでみてはいかがでしょうか。スタッフ一同親しまれる広報誌を目標に頑張っておりますので、皆様のご意見、ご要望をお寄せ下さいませようお願いたします。

又体調の崩れやすいこの時期、食中毒などに十分注意いたしましゅう。(鎌京)

絵画・彫刻の紹介

癒しの環境



「開墾地初夏」
展示場所 / 2階麻酔科外来前廊下

作者/相澤謙一(秋田市土崎港在住)
明治45年秋田市生まれ。秋田師範卒。土崎小学校長等歴任。現在、現代美術家協会員、秋田美術作家協会顧問、県美術文化章授章、県文化功労章授章。
「開墾地初夏」は田沢湖高原、「秋田男鹿風景」は男鹿桜島荘近くの加茂青砂海岸での油彩です。入院患者さんや病院を訪れる方々の病氣快復を願っております。



「秋田男鹿風景」
展示場所 / 1階レストラン前廊下



「男鹿塩瀬崎(風景画)」
展示場所 / 1階内視鏡室向廊下

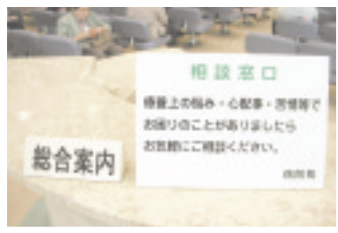
作者/佐藤要(秋田市飯島在住)
昭和11年秋田市生まれ。秋田工業高校卒。現在、秋田美術作家協会会員、二紀会所属。
私は男鹿の風景が好きです。荒々しい岩肌と奇岩、赤黒い岩に青い海、透明な水。特に、入道崎や塩瀬崎が好きで、暇があればスケッチに出掛けます。同じ風景でも朝と夕では違うし、季節によっても異なります。月見草の咲く頃、黄色の花と赤黒い岩、白い波、青い海とのコントラストは絶妙です。それに白い灯台があれば完成となります。

【お詫びと訂正】
本誌第2号の「癒しの環境」コーナーにおいて、掲載内容に誤りがありました。お詫び申し上げます。今回の第3号にて正しく掲載いたしました。

「相談窓口」の案内について

病院1階エントランスホールの総合案内に下記の内容で相談窓口の案内の表示をしております。

患者さまが、気軽に相談できるように相談窓口を案内し、医療サービスをはかっています。ケースワーカーが相談に応じます。



平成15年度 行事予定

6月 7日(土)	こまちホスピー・ボランティアの会総会
6月12日(木)~13日(金)	厚生連役付職員パワーアップ研修会(秋田市)
6月14日(土)	第3回 病院祭
6月16日(月)~7月 4日(金)	秋田大学地域包括実習
6月20日(金)	院友会 第18回総会
6月20日(金)	厚生連内部監査
7月 9日(水)~11日(金)	厚生連接遇指導者養成研修会(大湯村)
7月12日(土)	秋田県農村医学会 99回学術大会(JAビル)
8月21日(木)~22日(金)	厚生連医Ⅲ(看護師)研修会(初級)
8月28日(水)	秋田市保健所立入検査(医療監視)
9月 5日(金)~6日(土)	第26回 秋田県農村医学研修講座(平鹿総合病院)
10月 9日(木)~10日(金)	日本農村医学会第52回学術大会(広島)
11月 3日(月)	第44回 農村における健康を考える集い(能代市)
11月12日(水)~13日(木)	厚生連医Ⅲ(看護師)研修会(中級)
12月18日(木)~19日(金)	厚生連事務職員研修会(一般)